
リハビリテーション天草病院だより

2025年 10月

No. 116



発行 埼玉県越谷市平方343-1／(医)敬愛会広報委員会

連携について考える

総合相談部 渡辺 一生

診療報酬において、“医療と介護の切れ目のない連携”が重視され、その代表的な項目の一つに「入退院支援加算」があります。多くの医療機関で算定のための取り組みが図られ、人員配置に加え、連携実績についてなどさまざまな算定要件が規定されています。

【入退院支援加算】

※当院に該当する要件の概要

- ・社会福祉士及び看護師を退院支援部門に配置。また各病棟に専任の社会福祉士または看護師を配置。
- ・入院後7日以内にカンファレンスを実施。
- ・25機関以上の保険医療機関、介護保健施設や事業所等と転院または退院体制に関する協議を実施（各施設につき年3回以上）。
- ・介護支援専門員（ケアマネジャー）や相談支援専門員と共同し、退院に向けた説明や指導を実施（当院では年27回以上）。

これらは患者さんが退院後に安心して生活できるように、入院早期から退院に向けた支援方針の検討を始め、地域の医療機関や介護保険の事業所等とともに支援にあたることを期待して設けられたものですが、中には算定そのものが目的化しているような取り組みも散見されます。本来、“連携”とは、「同じ目的を持つ者が互いに連絡を取り、協力し合って物事を行うこと（広辞苑）」を意味しますが、近年、“連携の良好さ”は転院や退院に要した「時間」や「手続きの回数」を尺度に評価されることが多いように思われます。効率化が優先されるあまりに、患者さんの生活背景の共

有が不十分だと感じられる場面もしばしば確認されます。

わが国の医療の大きな潮流として“病床機能の分化”と“入院から在宅へ（早期退院促進）”が推進され、患者さんやご家族は十分な準備期間を持たないまま転院・退院を余儀なくされることも少なくありません。回復期リハビリテーション病棟では、入院期間が疾患ごとに規定されており、入院は回復への期待と同時に退院に向けた始まりとも言えます。そのような中で、総合相談部では、患者さんの生活の再設計の支援に使命を感じながら介入しています。

当院では、医療相談室のソーシャルワーカーと居宅介護支援事業所 敬愛のケアマネジャーが同室内で勤務しており、日常的に緊密に連携を取れる体制にあります。そこでは単に治療経過やADLのみならず、その方が入院するまでの生活背景や退院後の生活に対する本人やご家族の希望なども共有しながら支援にあたっています。また法人内には居宅介護支援事業所のほか、介護老人保健施設や訪問看護ステーション、地域包括支援センターを有し、更には入院・入所だけでなく、外来・通所・訪問リハビリを提供することで、退院後のリハビリテーションや生活について、切れ目なく支援できる体制を整備しています。

当院では、地域の限りある病床を効率的かつ適正に活用し、地域の皆さまが円滑に必要な医療を受けられるために尽力するとともに、「人が人を癒す医療」と「人が人を繋ぐ連携」を推進し、地域医療に貢献してまいります。

薬剤耐性 (AMR) について学ぼう！

薬局 原田 洋子

薬剤耐性とは？

細菌にたいして「抗菌薬」が効きにくくなることを「薬剤耐性」といいます。「抗菌薬」は肺炎・尿路感染症などの感染症治療における有力な武器です。その武器が使えなくなったり、より強力な武器が必要になる場面が増えてきています。必要以上に強力な抗菌薬を使う、感染症ではないのに抗菌薬を使う、医師の指示通りに服用しない、などの不適切な抗菌薬使用で薬剤耐性菌が増えてしまいます。

みなさんができること

①「風邪に抗菌薬は効かない」ということをご理解ください。

「風邪の原因はウイルス」です。細菌ではありません。

細菌とウイルス：大きさの違い(イメージ)

 インフルエンザウイルス
直径0.1μm 程度

 緑膿菌
1 μm 程度

AMR臨床リファレンスセンターHPより引用

細菌は細胞壁を持った単細胞生物です。ウイルスは細菌の50分の1程度の大きさで、自分で細胞を持ちません。ウイルスは大きさや仕組みが細菌と異なるので抗菌薬は効きません。

②処方された抗菌薬は医師の指示どおり服用しましょう。

これまで医療機関で抗菌薬を処方された時、指示通りに最後まで内服したでしょうか？実はこれはとても大切なことです。抗菌薬は、

細菌と戦う薬で、細菌による感染症に処方されます。抗菌薬には種類があり、細菌にもいろいろ種類があり、医師がそれらを鑑みて処方しています。抗菌薬は飲む回数も重要で、医師の指示どおりに服用しない場合、細菌を退治できないばかりか「薬剤耐性菌」が生まれてしまう可能性もあります。また、他の人に処方された抗菌薬をもらって飲むことは、効果が無いばかりか副作用に苦しめられることすらあります。

③基本的な感染対策をしましょう。

抗菌薬と正しく付き合うことは大切です。でも抗菌薬を飲まなくて済むのが一番です。感染症にかからないために今すぐできること…それは予防で、「手洗い」が大切です。

私たちが感染する病原体（細菌やウイルス）の多くは、まず私たちの手に付着します。また、私たちが病原体のついた手でさまざまなものに触れ、周りの人がそれらに触れることで、感染が広がっていきます。手洗いは、日々の生活の中でできる、きわめて有効な感染対策です。

当院の取り組み

当院では、院内感染対策委員会を設置しております。感染委員は院内を巡回し、感染防止対策の実施状況の確認・指導を行います。また、院内感染状況や抗菌薬使用状況の把握などの業務を行います。2025年7月から感染対策向上加算3の算定を開始し、地域の医療機関と連携を図りながら、感染対策・AMR対策に取り組んでおります。

「天草だより」に寄せて」

越谷市 金野 直樹

秋晴の夕刻、食後のカフェにて海外の友人と今後の予定をネット通話でのブッキングにて終了してきて帰ろうとした矢先、帰ろうと椅子に手をかけたところ手に力が入らず、立ち上がることもままならず気がついたら床に手をつけていました。たまたまお店の常連で脳卒中の経験のある方がそばの席におられ緊急で救急車を呼んでくださりました。退院後は感謝と共にお礼したいと思います。

記憶や言語が急速に薄れる意識の中で救急隊員に名前や電話番号をやっと告げ、その後の記憶は途絶えました。そして3日間の昏睡後に目が覚めると左側が完全に麻痺をした自分の姿が某所にありました。顔面神経麻痺も併発したためか顔面の硬直もあり、ちょっと前までは多少キリッとした短髪の自分から見事なまでに弱々しい病人へと変貌してしまい病気との少々ナイーブな闘いのスタートとなりました。

頭部の打ち傷も癒えた2ヶ月後、木枯らしの吹く晴れ晴れとした年の瀬の冬空の中、病院が準備してくださった特殊な大型タクシーに車椅子のまま乗車して無事に待望の天草病院に転院することが出来ました。転院すると間もなく初日から検査とリハビリが早速スタート。初日はゆっくりと考えて甘えていた自分の目をハッと覚ましてくれました。いざ天草ライフを始めてみるとこれがまた非常にシステムティックな環境で、自分にとってはベストの選択だったと確信出来ました。これからの日々の精進に励めそうと期待の持てる初日

でした。記憶の損失は否めませんが、連日の脳にオールジャンルの問いを続けるリハビリにより遅延が徐々に回復している部分もかなりあります。担当の言語聴覚療法士から毎日1ページ出題されるクロスワードの課題も妙味ありでした。各方面のリハビリスタッフのプロフェッショナルな指導に納得。各自が据え置きプリンタでプリントアウトする形の電子化されたスケジュールがとても分かりやすい。老若男女に日々愛用されています。

一瞬童心に戻るような節分の食事メニューには感激です。カレーライスもボリュームがあり味も良く満足度満点でした。料理を作られている方々が常に味と質の向上を内に秘めているのが伝わり、とても感謝しております。手のリハビリは良好。天草病院に来た時には大きな浮腫がありましたが、現在リハビリスタッフによる色々なマッサージにより浮腫もなくなり夢が膨らむように可動域も大幅に改善。当初はグローブのように膨らんだ手首の浮腫が1月頃には見事に収縮し、3月では強く拳を握れるまでになり、大きく左手を上を翳せるまでになりました。膝の痛みにも悩んでいた足のリハビリも渾身込めた連日のマッサージにより、今では歩行器での歩行を訓練中。日に300m以上を歩行中です。退院時には堂々と歩いて帰りたいと思います。自分のイメージを超えた高度なリハビリテーションの効果に潤む瞳。幾度となくこんな体感を与えてくれるリハビリスタッフ。優しく自立した生活へのファイトを促す看護師への感謝は日々を振り返る時に得ることの出来る、本日やり遂げたことの達成感への溢れ落ちる涙が物語っています。ある日、看護師の名を何人からも伺っていらぬことに気づく。数日でネーム等を覚え、挨拶スタート。看護師さんは皆、人情味があり、ハードなリハビリの疲れを幾度となく癒やしてくださいました。また、お風呂が

3日毎なのが本当に嬉しい。常にリフレッシュでき、リハビリの疲れを癒やしてくださいました。ちょっと重症だった自分を連日のリハビリでここまで鍛え上げてくださったリハビリスタッフ、日々の空いた時間にリハビリに付き合ってくださいました看護師の皆さん、介護士の方々の至れり尽くせりの姿勢、そして行き届いた細かいサービスを提供してくださった天草病院の関係者の方々に本当に感謝いたします。

退院後は天草病院で慣れ親しんだ規則正しい生活習慣を旅先などでも取り入れていきたいと思います。また、天草院長の細部まで目の行き届いた回診に患者として席を置かせて頂きとても良い思い出になりました。

そんな折、数日前から一羽の鳥が窓辺に遊びに来ています。窓越しのご挨拶だったけれど、自分にとって名も知らぬ彼は、まさに春告げ鳥であり、優雅に宙を舞う君のように僕もキット素敵な歩行をするよと心に誓ったのでした。リハビリスタッフから頂いた私の心に残る一言をひとつ。「リハビリはリハビリ時間も大事だが、それ以外の時間をいかにして費やしているかが更に重要である。」

With my walk becomes brilliant !

*患者様は杖歩行可能な状態に回復し、令和7年6月、当院を退院されています。

(投稿日 令和7年3月26日)

「人生というドラマ」

草加市 伊藤 吉夫

妻が病で旅立ったのは4年前の春。そして今年3月、突然脳梗塞という病が降りかかってきた。2日後には、左半身麻痺となってしまった。バイクが好きで剣道も長年続け、心身を鍛える時間を大切にし、料理人としても

半世紀近く過ごしてきた。しかし今回の経験は、それらとは全く違う形で、心を深く揺さぶられることになってしまい絶望感で一杯だった。私が高校生の時に、祖母が同じ脳梗塞で倒れ、家族で風呂に入れたり、夜中にトイレの世話をしたりしたことがあった。それが、その時は「世話をする側」だったのが、今こうして「世話をされる側」になって始めて人の優しさ、温かみに気付かされ、そしてまた今回の入院で本当に多くの優しさに触れた。

リハビリの時も、指がほんの少し動いたときがありその担当スタッフは自分のことのように喜んでくれた。たった1つの小さな変化を一緒に喜んでくれたことが、こんなにも「力」になると希望を感じた瞬間だった。人生の中で、病氣も喪失も避けては通れないものです。人は必ず弱る時があるはずです。でもその時、誰かの存在がそばにあるだけで世界の景色が変わるはず。この病院で、私は沢山の優しさに救われました。日本人の気質なのか、国民性なのか、それともこの天草病院の空気がそうさせているのか、きっと両方なのでしょう。

救急搬送されたとき飛んできた長女。いつも優しく見守ってくれた次女。結婚が決まりアメリカへ行ってしまう三女。そして天草病院の皆様。心より感謝の意を込めてありがとう。

今回の出来事は人生の貴重な1ページとなった。そして私の人生というドラマはまだまだ続くのだろう。

*患者様は歩行可能な状態に回復し、令和7年6月、ご自宅に退院されています。

(投稿日 令和7年6月23日)



フレイルとは？

リハビリ部 地域リハビリ担当 阿部 高家

皆さんは「フレイル」という言葉を耳にされたことはありますか？フレイルとは、加齢に伴って心身の活力が少しずつ低下し、健康な状態と要介護の状態の間にある「中間的な段階」を指します。病気ではなく、誰にでも起こりうる自然な変化ですが、早めに気づいて工夫することで予防や改善が可能です。

フレイルのサイン（改定 J-CHS 基準より）

項目	評価基準
体重減少	半年で2kg以上の意図しない体重減少 (特にダイエットをしていないのに痩せた)
筋力低下	握力：男性<28kg、女性<18kg (ペットボトルのキャップが開けづらい)
疲労感	直近2週間、わけもなく疲れを感じる
歩行速度	通常歩行速度が秒速 1.0m 未満 (横断歩道を青信号のうちに渡り切れない)
身体活動	①軽い運動・体操をしていますか？ ②定期的な運動・スポーツをしていますか？ 上記の2つのいずれも週 1 回もしていない

これらの中でひとつでもあてはまれば、フレイルの始まりの段階である、「プレフレイル」と呼ばれます。

なぜ予防が大切な

フレイルを放っておくと、転倒や入院のリスクが高まり、要介護の状態につながりやすくなります。75歳を超えると、要介護状態となった原因として、「フレイル」が増えることが分かっています。一方で、フレイルは加齢や生活習慣、環境や遺伝の影響によって、

60歳を迎える頃から少しずつみられる方もいます。しかし、適切な取り組みを早めに行えば、再び元気を取り戻し、健康寿命を伸ばすことができると言われています。つまり、フレイルは「気づきと予防」で未来を変えられる大切なサインなのです。

予防のポイント

フレイル予防には、毎日の生活が何より大切です。

- ・栄養：肉や魚、大豆製品など、タンパク質を意識してとる(筋肉に直結します)
- ・運動：ウォーキングや軽い筋トレで筋肉を保つ
- ・社会参加：趣味や地域活動などに参加し、人と交流する（ご自宅に閉じこもった生活は刺激が減り、活動量が低下する悪循環につながります）

この3つが大きな柱になります。加えて、口腔ケアや十分な睡眠も心身の健康維持に欠かせません。小さな工夫から始めてみましょう。

最後に

フレイルは「老いのサイン」ではなく、「これからの健康を守るチャンス」です。この先ずっと「やりたいことを、やりたい時にできる」ように、ご自身の心身の活力の状態を確認する習慣をつけましょう。そして何より、早い段階から「自分には関係ない」と思わず、予防のポイントを生活に取り入れていくことが大切です。

関連施設だより

数字で見る当施設の在宅復帰率等実績

介護老人保健施設シルバーケア敬愛

事業所	項 目	2022年度	2023年度	2024年度
		年度末	年度末	年度末
介護老人保健施設 (在宅復帰超強化型)	入所利用状況（年度平均人数/日）	100.50人	100.63人	100.94人
	在宅復帰・在宅療養支援等指標			
	目標値（①～⑩合計 70点以上）	73点	73点	83点
	① 在宅復帰率	77.5%	66.6%	61.8%
	目標値（6か月平均 50%以上 20点）			
	② ベッド回転率	7.7%	8.7%	10.7%
	目標値（3か月平均 5%以上 10点）			
	③ 入所前後訪問指導割合	32.0%	42.3%	45.4%
	目標値（3か月平均 30%以上 10点）			
	④ 退所前後訪問指導割合	58.3%	43.7%	50.0%
	目標値（3か月平均 30%以上 10点）			
	⑤ 要介護4・5の割合	54.2%	54.3%	55.6%
	目標値（3か月平均 50%以上 5点）			
	⑥ 喀痰吸引の実施割合	1.9%	2.3%	2.6%
	目標値（3か月平均 5%以上 3点）			
	⑦ 経管栄養の実施割合	5.7%	8.3%	9.7%
	目標値（3か月平均 5%以上 3点）			
	⑧ 居宅サービスの実施数	3	3	3
	目標値（3サービス 5点）			
通所リハビリ テーション (大規模型)	⑨ リハビリ職員配置割合	7.4人	6.6人	7.5人
	目標値（3か月平均 5人以上 5点）			
	⑩ 相談員配置割合	3.9人	3.2人	3.4人
	目標値（3か月平均 3人以上 5点）			
	経口維持加算	312人	301人	275人
	経口摂食を維持するための多職種連携によるサービス			
	口腔衛生管理加算	366人	658人	793人
	歯科衛生士による口腔ケア			
	所定疾患施設療養費	19人	66人	46人
	肺炎・尿路感染症等の治療管理			
通所リハビリ テーション (大規模型)	ターミナルケア加算	8人	6人	4人
	24時間の医療体制によるターミナルケア			
	通所利用状況（年度平均人数/日）	105.29人	105.01人	100.44人
	新規利用者数	107人	101人	122人
	リハビリテーションマネジメント加算	235人	207人	1471人
	医師を中心に多職種でリハビリの質を管理			
	口腔機能向上加算	268人	336人	387人
通所リハビリ テーション (大規模型)	STまたは歯科衛生士による口腔機能向上サービス			
	中重度者ケア体制加算	42.8%	46.0%	44.3%
	要介護3～5の割合（3か月平均 30%以上）			

在宅復帰超強化型 算定要件

- ・在宅復帰・在宅療養支援等指標70点以上
- ・リハビリテーションマネジメントの実施
- ・週3回以上の充実したリハビリの実施
- ・退所時指導の実施
- ・地域貢献活動の実施

編集手帳

★9月21日、帝国ホテルにて、当院創立50周年記念祝賀会を開催致しました。私は創始者としての御礼のご挨拶の中で、関係者の皆様方の力強いお力添えのお陰で、何とか地域医療に貢献出来たこと、いつも感謝の気持ちと私共の基本理念であります「敬愛」の気持ちを忘れずに仕事に当たることができたこと、につきまして皆様に心より厚く感謝を申し上げます。

★また私の履歴の中で唯一誇れるものとして

は、天皇陛下に褒賞と勲章で2回の拝謁の機会を頂戴したことも申し上げます。

★当院を含め当法人の将来を考えると幾つかの不安がよぎりますが、皆様方のこれまでどおりのご支援、ご協力を頂き、当法人が末永く世のため人のためになる仕事を続けていきますようにと切に願っております。皆様方には暖かく見守って頂きお力添えを頂くしかありません。何卒宜しくご指導下さいますことをお願い申し上げ、今号の編集手帳とさせていただきます。

(相談役 天草 大陸)

当法人の公式ソーシャルメディア

患者さんへの情報発信として、当院の公式 YouTube チャンネルを開設しています。右のQRコードからアクセスできますので、是非ご視聴ください。

- 認知症専門医が解説 認知症のリハビリテーション
- ～回復期～ リハビリ治療の達人たち
- 入院当日の流れ 一回復期リハビリテーション
- 口から食べるリハビリ最前線 摂食嚥下リハビリーVE/VF検査ー
- 脳卒中から仕事に戻るまで ー高次脳機能障害からの復活ー 他



当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構（主たる機能と高度・専門機能）」と「ISO」の認証を取得しています。なお、併設の老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



表紙のこトバ

今回、リハビリの合間に皆で、秋をテーマに紅葉やブドウ、栗やさつまいもを折り紙で作りました。色とりどりの紅葉を貼りながら「本当に秋が来たみたいだね」と言いながら、手を動かすうちに気持ちも元気になっていきます。

完成した作品をデイルームに飾られると、華やかで明るい雰囲気になり、見るたびに嬉しい気持ちになります。リハビリの合間にこうした作業があると、楽しみや達成感があり、入院生活の中での大切な時間になっています。

H・Y様 Y・M様